

音楽科における幼小接続を目指して
— アメリカの教科書における音楽要素「旋律」を手がかりに —

Aiming to coordination between kindergarten and elementary school
in music education

— Using the structural elements of music “melody” in American textbooks —

井上 朋子*

(令和4年1月7日受理)

要約

幼児教育と小学校教育における音楽学習の系統性を検討していくにあたり、小学校音楽科で重要視されている「音楽を形づくっている要素」に着目することにした。本稿では、音楽要素を軸に教材が配列されているアメリカの音楽科教科書の中から、音楽要素の1つである「旋律」に関する教材を抽出し、指導内容の系統性を整理した。そして、幼児教育と小学校教育において系統性のある音楽学習を展開していくための手がかりを得た。

キーワード：幼小連携、音楽要素、旋律

keywords : coordination between kindergarten and elementary school, structural elements of music, melody

I. 問題の所在

平成29(2017)年及び平成30(2018)年における、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(以降「3法令」と示す)、そして小中高等学校の学習指導要領の改訂により、幼児教育から高等学校教育までに育成すべき資質・能力が3つの柱(「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」)で整理された。これは学校教育での学びの連続性が重視されたことによるものである。

幼児教育と小学校教育の接続については、3法令と小学校学習指導要領ともに校種間の接続に関する項目が新設され、内容が充実された。

例えば小学校学習指導要領総則では、幼児期における遊びを通して育まれた資質・能力を教科学習につなげること等¹、そして小学校学習指導要領解説音楽編では、他教科等の単元(題材)と関連付ける方法の具体例が示された²。このことに

より、現在、教育現場では、スタートカリキュラムやアプローチプログラムの開発が急務となっている。

次に小学校音楽科の目標について取り上げる。従前は総括目標として一文で示されていたが、今回の改訂では、育成を目指す資質・能力(3つの柱)別に整理され、次のように掲げられた³。

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。

(*いのうえともこ 保育科准教授 音楽教育・ピアノ)

- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

ここでの「音楽的な見方・考え方」とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること」⁴と定義づけられ、音楽科を学ぶ本質的な意義の中核をなすものと説明されている。

さらに、「音楽の見方・考え方」の定義及び音楽科の【共通事項】で取り扱われている「音楽を形づくっている要素」は、次のように「ア 音楽を特徴付けている要素」と「イ 音楽の仕組み」に分けて示されている。従前は、学年別に示されていたが、現行では一括して示され、児童の発達の段階や指導のねらいに応じて繰り返し指導し、6年間を見通した学習が求められた。

「音楽を形づくっている要素」

ア 音楽を特徴付けている要素

音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズ

イ 音楽の仕組み

反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関連など

ここまで、3法令や小学校学習指導要領を概観してきたが、筆者が今回着目したのは、「音楽を形づくっている要素」である。前述したように、小学校学習指導要領解説音楽編では、幼児教育から小学校教育へ円滑に接続できるよう、生活科等との関連付ける方法の具体例が示された。そこでは、わらべうた、季節や行事のうたの表現を深めるといった表現活動が取り上げられているが、それらに「音楽を形づくっている要素」も関連付けること、また「音楽を形づくっている要素」を系統性の軸の1つとして検討することも、幼児教育から小学校教育までの音楽学習に見通しをもたせ

やすくなると考えたのである。

「音楽を形づくっている要素」や音楽要素に着目した幼小接続に関する先行研究は数少ない。教材研究やカリキュラム研究としては、櫻井⁵らが、子どもの歌100曲を用いて、拍子、リズム、調性等の音楽要素別に分析している他、泉谷⁶らが、各活動で知覚される音楽要素を挙げながら、幼・小・中一貫音楽カリキュラムを試案している。また、小見山⁷らは、園児の遊びの中に見られたダイアログを音楽要素の観点から分析し、幼児教育での遊びから小学校音楽科への接続方法を検討している。他、海外における音楽要素に着目した幼小接続に関しては、斉藤⁸や矢野⁹が考察をしている。斉藤は、アメリカの音楽科教科書の幼稚園版と小学校1年生版を分析し、音楽概念の取り扱われ方の特徴や違いを整理し、矢野は「発想」要素である「強弱」「テンポ」「アーティキレーション」「雰囲気」に着目し、音楽科教科書の幼稚園版から小学校6年生版までの系統性を考察している。

そこで、本稿では、GradeK~Grade8まで、音楽要素を軸に教材が配列されているアメリカの教科書を分析、考察し、幼小接続の方法を検討することにした。「音楽を形づくっている要素」より、先行研究でも見られなかった「旋律」に着目し、幼児教育と小学校教育において系統性のある音楽学習を展開していくための視点を明らかにする。

II. アメリカの音楽科教科書に見られる「旋律」の取り扱われ方

(1) 方法

今回は、Mc Graw Hill社の音楽科教科書『Spotlight on Music』¹⁰の教師用指導書を用いる。『Spotlight on Music』は、GradeKからGrade8まで音楽要素を軸とした系統性のある指導内容で構成されている。音楽要素としては、音の長さに関する「拍 (beat)」「拍子 (meter)」「リズム (rhythm)」、音の高さに関する「旋律 (melody)」「ハーモニー (harmony)」「調性 長調/短調 (tonality major/minor)」、構造に関する「組み合わせ (texture)」「形式/構造 (form/

structure)」、音色に関する「歌声／楽器の音色 (vocal/instrument tone color)、表現に関する「強弱 (dynamics)」「速度 (tempo)」「アーティキュレーション (articulation)」、文化環境として「ジャンル／背景 (style/background)」の計14の音楽要素が挙げられ、これらの音楽要素を軸に9年間の教材が配列されている。また、各学年に6単元 (Unit) あり、さらに1単元は8つのレッスン (Lesson) で構成されている。

本稿では、日本の幼稚園と小学1～6年生にあたる GradeK と Grade1～6 の教科書の中から、「旋律 (melody)」を主な学習内容としている教材を抽出し、それらの教材を整理、考察する。

(2) 各学年における「旋律」の学習内容の分析と考察

① GradeK

表1から分かるように、教材のほとんどが音の高低の違いを感じ取ることを目的とした活動である。音名や音程を理解したり、演奏したりする前に、まずは音の高低の違いを耳で感受できる力を育成することが目指されているのである。また、常に音楽要素を感じ取りやすいよう、身体の動きを伴った活動が多く挙げられている。

GradeKの教科書で最初に「旋律」に関連する内容が登場するのは、Unit2のLesson1である。まず導入として、歌を聴きながら、拍を打ったり、動物の鳴き声の部分のみを歌ったりする。その後、音の高低を見つける活動としては、音源を聴

表1 GradeK「旋律」に関する学習内容

Unit	Lesson	Title	Explore	Label	Practice
Unit2	Lesson1	高いと低い	・音の高低を聞く	・音が高くなったり低くなったりするのを確認する	・音の高低を見つける ・音の高低を説明する ・音の高低を動きで示す
	Lesson3	1番高い音を確認しよう	—	—	・歌詞が低くなったり、高くなったりするのを確認する ・歌の中で音が低くなったり高くなったりするのを聴く ・音の高さをつけて歌う
	Lesson5	高い音と低い音を聞いてみよう	—	—	・手の動きで、音の高低を示す ・同じ高さの音が続いている部分を確認する ・旋律の輪郭を示す ・音の高低を演奏する
Unit3	Lesson2	低いと高い	—	—	・手の動きをつけて、音の高さの動きと一致させる ・音の高低を聞いたり、演奏したりする (レからラ) ・歌の中にある音の高低を声に出す (ファからド) ・旋律の方向性を動いて示す
	Lesson3	もっと高く、もっと低く	—	—	・音の高低を演奏する (レからラ) ・音の高低を歌って表現する (レからラ)
Unit5	Lesson2	低い音と高い音を聞こう	—	—	・高い音を確認する ・歌の中の1番高い音を確認する ・2つの音の中で低い方の音を確認する
Unit6	Lesson1	低く、高く、もっと高く	・なめらかな音と途切れた音を動きで表現する	—	・高い音と低い音を聞いたり、表現したりする ・高い音と低い音を動きで表現する ・低い、高い、より高い音を声に出す ・低い、高い、より高い音を確認する
	Lesson3	クマと一緒に低く、高く、もっと高く	—	—	・低い音と高い音のペアを動きで表現する ・低い、高い、より高い音を動きで表現する ・低い、高い、より高い音を声に出したり、表現したりする

いて、高い音や低い音に耳を傾けたり、動物の中で高い鳴き声や低い鳴き声をもつ動物を考えたりする活動、さらに、歌に出てくる動物の鳴き声から音の高低を判断する活動も掲載されている。そして音の高さの違いは、手の動きで確認している。その他、1オクターブ異なる2つのトーンチャイム（ドの音）を見て、2つの楽器の長さを比べたり、鳴らしたりする活動も紹介されている。また、音の高低を説明する活動としては、まず教科書に描かれている妖精と巨人の絵の位置について話し合い、音の高低に着目しながら音楽を予想した後、エルガー作曲「子どもの魔法の杖」より「妖精と

巨人」を聞き、絵に示されている形式に注目しながら、曲が表す情景について話し合うことになっている。最後に、「妖精と巨人」を聞きながら音の高低を身体で表したり（例：高い音のときは妖精になり羽を高く上げる、低い音の時は巨人になりしゃがむなど）、歌を歌いながら教室を歩いたりする活動が示されている。

次に、初めて音名が教科書に示されるのは、Unit3のLesson2である。ここでは「きらきら星」を聴いて拍を打ったり、「ABCの歌」と同じメロディであることに気づかせる活動になっている。また教科書上の星の図形を見ながら歌の最初のフ

表2 Grade1「旋律」に関する学習内容

Unit	Lesson	Title	Explore	Label	Practice
Unit1	Lesson2	上行と下行	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の方向性を身体を動かして示す ・旋律の動きを聞く ・手の動きで旋律の方向性を説明する 	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の方向性（上行形、下行形）を認識する 	<ul style="list-style-type: none"> ・知っている歌を歌ったり、手の動きで旋律の方向性を認識する ・絵と合うように、音を上げたり、下げたりする
	Lesson4	旋律の形	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・知らない歌を使って、旋律の方向性を見つける ・旋律の方向性に従う
	Lesson8	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・知っている歌の旋律の方向性を説明する ・旋律の方向性を認識する ・曲にふさわしい声で歌いながら、旋律の方向性を解釈する
Unit2	Lesson2	高いと低い	<ul style="list-style-type: none"> ・長い音を認識するとともに、問いと答えの形で歌う 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌の中にある音の高低を認識する 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの中にある音の中から音の高低を認識する ・高低を動きで表現する ・音が高いか低いかを当てる
	Lesson4	高いと低い	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の中の音の高低を説明する ・歌の中の高低を認識する ・楽器の音の高低を認識する ・フルートとチューバの音の高さの違いを認識する
	Lesson8	—	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの詩のできた歌を歌う 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・音の高低を説明する ・音の高低、長短を聞く ・音の高低を認識する
Unit4	Lesson1	高いと低い	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律を聞く ・音の高低を認識する ・音のパターンを交互唱する ・音の高さを動きで示す 	—	—
	Lesson3	ソとミ	<ul style="list-style-type: none"> ・音の高低（ソとミ）を歌ったり動いたりして示す 	<ul style="list-style-type: none"> ・記譜法の決まりを確認する ・ソとミを手の動きで示す 	<ul style="list-style-type: none"> ・短い歌の楽譜の中からソとミを見つける
	Lesson7	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ソとミを確認したり、演奏したりする ・歌の中にあるソとミを歌う ・作曲された旋律に表現要素を加える ・交互唱で歌い、旋律の方向性を確認する

Unit5	Lesson2	新しい音	<ul style="list-style-type: none"> ・ラを歌う ・動きの連続を練習する ・ラソラミのパターンを歌う ・言葉と音の高さを一致させる ・新しい音の高さを動きで示す 	—	—
	Lesson4	ミソラ	—	・ラの音名を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・身体全体でソミラを表現する ・ラで歌を読む ・楽器でソラのパターンを演奏する
	Lesson6	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・休符を動きで示す ・歌に合わせて一定の拍を打つ ・2ビートの動きのパターンを作ったり表現したりする ・♩、♪、四分休符を使ってリズムを読む ・リズムパターンをつくる
	Lesson7	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の中のソミラの音を確認する ・楽器で1つのメロディパターンを演奏する ・ミソラを使ってメロディパターンをつくる
	Lesson8	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国の遊び歌の中にある拍のまとまりを確認する ・歌を使ってリズムパターンを打つ ・物語を伝えやすくするためにパターンをつくる
Unit6	Lesson4	旋律をつくらう	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ミソラで構成されている歌を歌う ・ミソラの音の高さを確認する ・ミソラを使って、パターンを作ったり、書いたり、声に出したりする ・歌の中のミソラを認識する

レーズを歌ったり、手の動きで星の動きと音の高さを一致させながら歌ったりしている。その後、音階の出る楽器をもち、最初の4音のみを演奏している。その後、別の曲を使って、低い音から高い音へ跳躍する部分を捉えたり、高音から低音に跳躍する部分に合う身体の動きを考えたりしている。

② Grade1

GradeKと比較すると、単に音の高低を捉えるだけでなく、旋律の方向性を感じ取る活動が増え、また指定された音で旋律を作る活動も見られる。十分に音の高低に慣れ親しんだ後で、旋律の動きや方向性、フレーズ感が捉えられるように教材が配列されていることが分かる。また五線譜についても扱われ、認識したことを説明する活動も増えている。その他、新しく学ぶ音としてはミソラの3音のみであるが、ハ長調のみならず、様々な調性の曲が用いられており、移動ドで学習が進めら

れているのも特徴である。

まずは旋律の方向性を学習目的としているUnit1のLesson2を取り上げる。ここでは旋律の動きに合わせて身体を動かしたり、教科書の絵のイメージに合わせて声に抑揚をつけながら話す活動等が紹介されている。

次に新しい音「ソミ」が出てくる単元Unit4のLesson3を取り上げる。高い音のときは肩、低い音のときは腰を触る遊びを通して2音の高さの違いを復習している。その後、新しい歌を用いて身体の動きで音の高低を示し、階名で歌ったり、五線譜を見て歌ったりしている。一貫して、ソとミの3度音程を体感、認知できる内容になっている。

最後に、旋律を創作するUnit6のLesson4を取り上げる。まずはミソラのみで構成されている歌を使って、音高の違いを身体や手の動きで示しながら、階名で読んだり歌ったりした後、教科書の詩にミソラのみを使って旋律を付ける活動になっている。楽器を使いながら考え、さらにできた旋

律を記譜する活動になっている。また、作った旋律を練習する際は、オルフ木琴が使われ、必要な音板のみを残して練習するようになっている。

③ Grade2

Grade1 では、ソミラの3音を感覚的に捉えていたが、Grade2 では、これらの音の名前を知識として習得するようになっている。また新たにドとレの音が増え、5音(ドレミソラ)になっている。後半ではこの5音を用いたペナトニックに関する学習が中心となっている。具体的にはペナトニックでできた歌を歌ったり、歌の中からペナトニックを認識したりする活動で成り立っている。他の特徴としては、Grade1 と比べて、楽譜か

ら音や音型を探す活動が増え、読譜力の育成が目指されている。また、ハンドサインを新たに学ぶことで、Grade1 での単なる音の高低の知覚だけでなく、音程として習得できるようになっている。そして、1年間通して、学習した音を用いた即興演奏や作曲を行う活動も行われていることも特徴である。Grade2 の最後には、旋律の方向性や形を捉える活動が取り入れられている。

ここでは、Unit1 の Lesson4 の中から「旋律」に関する教材を取り上げる。まず、ソとミの音高の違いを手で確認し、その後、ソとミの名前を楽譜上で覚えるとともに、ハンドサインで音の高さを認識する活動になっている。そして、ソとミのみでできている歌を用いて、ハンドサインでソの

表3 Grade2「旋律」に関する学習内容

Unit	Lesson	Title	Explore	Label	Practice
Unit1	Lesson2	もっと高く、低く歌おう	<ul style="list-style-type: none"> ・より高く、低い音を真似する ・身体を動かしながら旋律の方向性を示す 	<ul style="list-style-type: none"> ・音の高さと旋律を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を動かして、音の高低を示す ・音の高低を示すための音符を見る
	Lesson4	ソとミを読もう	<ul style="list-style-type: none"> ・ソとミを使って歌ったり、動いたりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソとミの名前を覚えて、ハンドサインを学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌の中にあるソとミを認識する ・↓、↑と四分休符を含むリズムを強化する ・楽譜の中のソとミを認識する
	Lesson7	音階の出る楽器を演奏しよう	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ソとミを使って即興演奏をする ・楽譜上のソとミを読むことを強化する ・二つの音の中にあるソとミを歌ったり、演奏したりする ・新しい曲の中にあるソとミを読む
Unit2	Lesson2	ラと呼ばれる新しい音に会おう	<ul style="list-style-type: none"> ・ミソラが使われている歌で、ラの音を歌ったり、説明したりする ・ラの音を説明する ・ロンド形式を動いて示す 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラの名前を覚える ・ミソラでできた歌を読んだり、歌ったりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーソの音程を認識する
	Lesson4	ミとソとラを読もう	<ul style="list-style-type: none"> ・トランペットを含む楽曲を聴く 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ミソラを読んだり、ミソラを使って即興演奏をする ・器楽曲の中にあるミソラのパターンを認識する
Unit3	Lesson2	南アメリカの新しい音	<ul style="list-style-type: none"> ・手を動かして、高、中、低の音を示す ・ドミソを使ったパターンの中にある3つの音を聞き分ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドを認識するとともに、ハンドサインを学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌の楽譜の中からソミドのパターンを探す
	Lesson4	アジアの音	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ドミソを読む ・ドミソと二分音符を認識する ・ドミソと二分音符を使って作曲する
	Lesson8	世界の中のドミソ	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ドミソの伴奏を読んだり演奏したりする ・楽譜上のソラソヤソミドのパターンを探す ・ドミソを使ったフレーズを即興演奏する

Unit4	Lesson2	新しい音、レを読もう	・レーレードのパターンの旋律の形を動いて示す	—	・ドミソラを復習する ・楽譜の中にあるドレミを見つける ・レが使われている旋律を読む
	Lesson4	レを読もう	—	—	・声に出しながらレーレードのパターンを認識する ・ドレミソを読んだりそれらを使って即興演奏をする ・レとド、ミの関係を復習する ・ドレミをまねして演奏する
	Lesson6	ドレミソを歌ったり演奏したりしよう	—	—	・ドレミソのフレーズをまねして歌う ・4つの音が使われた歌を読む ・ドレミソのパターンが使われている新しい旋律をつくる ・ドレミソで使われた問いの旋律を読む ・ドレミソの旋律を聴く
	Lesson8	ドレミソを読んだり演奏したりしよう	—	—	・ドレミソを認識する ・旋律の問いに対する答えとしてのドとソを認識する ・ドレミソの部分を読んだり演奏したりする
Unit5	Lesson2	ペンタトニックを発見しよう	・ペンタトニックのチャンツを真似して歌う ・階名を使ってペンタトニックのフレーズを説明する	・ペンタトニックを説明する	・ペンタトニックでできた歌を歌う ・ペンタトニックでできた歌の中の音の高さを認識する
	Lesson4	ペンタトニックを読んだり演奏したりしよう	—	—	・ペンタトニックの音を認識したり、歌ったりする ・ペンタトニックでできた歌の音を読む ・ペンタトニックのベルのパートを読んだり歌ったりする
	Lesson6	ペンタトニックを使って練習しよう	—	—	・ペンタトニックの音を並べる ・ペンタトニックでできた歌を読んだり歌ったりする ・ペンタトニックを使って即興演奏する ・ミーソラの歌を読んだり演奏したりする
	Lesson8	ドレミソラを読んだり動いたりしよう	—	—	・ペンタトニックの音を読む ・ペンタトニックでできた歌を歌う ・階名を用いてドーレーミとドーレードのフレーズを歌う
Unit6	Lesson2	ドレミソラを読んだり歌ったりしよう	—	—	・ペンタトニックの音を認識する ・ペンタトニックの音を読む ・ペンタトニックのパターンを声に出して認識する ・ドレミソが用いられた歌を読む
	Lesson4	ドレミソラを演奏したり歌ったりしよう	—	—	・ペンタトニックを用いて即興演奏をする ・ペンタトニックの音を歌うとともに、6/8のリズムを読む ・歌の中のペンタトニックの音を読む
	Lesson7	経過音、跳躍、大跳躍	—	—	・旋律の方向性を動きで示す ・旋律における経過音、跳躍、大跳躍を認識する ・経過音と跳躍を使った旋律を使ってロンドをつくる
	Lesson8	旋律の形	—	—	・旋律の形を動きで示す ・歌の二つの部分の旋律の形を説明する

みを示したり、楽譜上のソの音を探したりする活動になっている。その後、ミの音においても同様の活動を行っている。最後に、7音すべてが使われている歌を使い、その中からソとミの音を探したり、ハンドサインで示したりしている。

④ Grade3

Grade3では、Grade2での旋律の動き方の違いを認識する学習に加えて、上行、下行、連続音の旋律の形を知覚する学習が入っている。また、Grade2の5音（ドレミソラ）に、新たに低いソとラが内容に加わっている。その新しい音は、ヴァ

イオリンを使って、学習していることも特徴である。そして、曲中の主音を捉えたり、長調と短調を学んだ後、各曲の主音を認識したりする活動が入っている。

Grade3では、Unit5のLesson6を取り上げる。ここではト音記号を学び、ト長調の楽譜を用いて音名のG、A、Bを習得している。そして、音名と階名の両方で旋律を歌っている。ここで初めて、音名を学ぶことになっている。

また、Unit6のLesson1の導入としては野球選手がホームベースに戻ってくる様子を思い出させ、主音と関連付けている。その後、実際にホー

表4 Grade3「旋律」に関する学習内容

Unit	Lesson	Title	Explore	Label	Practice
Unit1	Lesson2	旋律の形	・リズムパターンを手で打つ ・旋律の動きを示す	・旋律についての意味を明確にする	・旋律の形をたどる ・上行、下行、同音の旋律の動きを認識する
	Lesson4	旋律と一緒に動こう	・ミレドの形を説明する	・ミレドを認識する	・楽譜の中にある「」、ノ、四分休符を認識する ・四分音符と四分休符を読んだり、表現したりする
Unit2	Lesson3	音の高さを探ろう	・ソとラを含む歌を歌う	・ソとラを認識する	・楽譜上におけるソとラを認識する ・ソとラが使われた旋律のフレーズを読む
Unit3	Lesson2	フレーズに合わせてヴァイオリンを弾こう	・フレージングをつけて歌う	・韻、リフレイン、フレーズについての意味を明確にする	・異なる長さのフレーズを認識する ・フレーズと形式を動きで示す
	Lesson4	新しい音をヴァイオリンで弾こう	・ドより低い音を説明する	・低いソと低いラを認識する	・低いソと低いラを読む
	Lesson8	音を探そう	—	—	・楽譜上の低いソと低いラを認識する ・低いソと低いラを含むパターンを読む ・低いソと低いラを含む6/8拍子のパターンを読む ・低いソと低いラを用いて6/8拍子の旋律を表現する
Unit4	Lesson4	高いドへ上ろう	・ラより高い音を説明する	・高いドを認識する	・高いドを含むペンタトニック音階を歌ったり演奏したりする
	Lesson6	動きの中の旋律	・連続音における旋律の動きを復習する ・経過音や跳躍音をもつ旋律を歌う	・経過音、跳躍音、大跳躍を認識する	・楽譜上における旋律の動きの4つのタイプを探す
Unit5	Lesson6	音を探ろう	・3つの音でつくられた歌を歌う	・G、A、Bの音名を覚える	・民謡の中のG、A、Bを認識する
Unit6	Lesson1	帰航	・主音で終わる歌を歌う	・主音を認識する	・主音で終わるよう、即興する ・主音を声に出して認識する ・主音を歌いながら旋律を比較する
	Lesson4	動いて！	—	—	・長調と短調の歌の主音を復習する ・主音をラとして認識する ・主音をドとして認識する ・主音を認識する

ムベースに立ち、旋律とともに動くといった活動をしながら中心音について認識させている。その後、D、E、G、A、Bを使って旋律をつくり、最後の音はGの音で終えて完結させるという即興活動等が挙げられている。

⑤ Grade4

Grade4では、Grade3と似た内容も多いが、新

しい音として、ファと高いド、そして、シが登場する。ようやくGrade4で、ドレミファソラシの7つの音を全て習得したことになる。また、旋律の形を捉える学習も多い。創作活動では、指定された音のみを使った創作でなく、用いる音符や休符の種類も増えてきている。Grade4の最後には、装飾音も学ぶようになっている。

Grade4では、Unit6のLesson5の装飾音につ

表5 Grade4「旋律」に関する学習内容

Unit	Lesson	Title	Explore	Label	Practice
Unit1	Lesson2	シェイプアップと船出	・旋律の形を模倣する	・音の高さと旋律についての意味を明確にする	・旋律の形の中にある高い音と低い音を認識する ・旋律の形を動きで示す ・旋律の形を視覚的な表現でたどる
	Lesson4	旋律は形をつくる	・ドレミソラを含む旋律の形を示す	・ドレミソラを認識する	・旋律の形をたどる：上行形、下行形、連続音としての旋律について説明する
	Lesson7	メロディの形	—	—	・旋律の形を動いて示す ・拍に合わせて動く ・四分音符、二分音符と四分休符のパターンを読んだり演奏したりする
	Lesson8	夜と昼の旋律	—	—	・ペントニックでできた歌を聴きながら、ペントニックを認識する ・階名を使ってペントニック音階を読む ・ドミソとミレドのパターンを読む ・♭、♯、二分音符と四分休符を使って創作する ・ドレミソラを用いて即興演奏をする
Unit2	Lesson3	線と空間	・低いラと低いソが出てくる歌を歌う	・低いラと低いソの名前を覚える	・低いラと低いソを聴いたり、読んだりする
Unit3	Lesson2	カリブソにおける経過音、跳躍、大跳躍、	・旋律の動き方を聴く ・旋律の形をたどる	・歌の中で繰り返される音、経過音、跳躍を認識する	・連続音や経過音を聴き取り、動きで示す ・4/4拍子の歌に合わせて♭、♯と四分休符を演奏する ・連続音、経過音、跳躍している音を動きで認識する
	Lesson3	新しい音を探そう	・ファを含む音でできた歌を歌う ・歌の中でファの音を歌う	・ファの名前を覚える	・ファが使われた旋律のパターンを読む ・対のセクションを聴く
Unit4	Lesson1	「虹の彼方に」における経過音	・旋律の形を動いて示す ・跳躍音程を聴く	・オクターブについての意味を明確にする	・楽譜からオクターブを認識するとともに演奏する ・声に出してオクターブの跳躍を認識したり、歌ったりする
	Lesson3	新しい音を歌うこと	・高いドを含む旋律の形を説明する	・高いドについての意味を明確にする	・高いドを含む音を読む ・高いドを含む楽譜を読んだり、楽器で演奏したりする
	Lesson7	マネシツグミの声はどれくらい高い？	—	・他の文化における音楽の響きを説明する	・高いドを含むペントニックの音を読む ・オクターブの跳躍音程を聴く ・ペントニックを使って旋律を即興で創作する
Unit5	Lesson4	新しい音を読もう	・シの音を含む音を歌う ・シの音を含む歌を学ぶ	・シの名前を覚える	・長音階の中のシの音を見つけたり、聞いたりする ・シの音が含まれる旋律のフレーズを読む
Unit6	Lesson5	音で飾ろう	・声の装飾について説明する	・装飾音についての意味を明確にする	・動きにおける装飾を使う ・旋律における装飾を認識する

いての学習を取り上げる。まず、導入では生活用品における装飾について話し合い、そのうえで楽譜上の装飾音を探したり、歌ったりしている。また、ステップ等の動きにおける装飾として、回転や腕の動き、身体の変化等を音楽に合わせながら考えさせている。

⑥ Grade5

Grade5では、移調と、さまざまな調性でのペンタトニックが取り扱われている。ペンタトニックとダイアトニックの違いを認識する学習も行われている。また、Unit4では、旋律中の3音を縦に積み上げることによって旋律から和音の学習へと発展させている。Unit6では、旋律を表現豊かに歌えるよう、発声法を工夫したり、自分の歌唱表現を自己評価したりする活動も取り入れられている。

Grade5ではUnit2のLesson4を取り上げる。このLessonのテーマは、アジアとなっており、中国の歌を学習するとともに、ペンタトニックの

音階を使って、読譜や記譜、即興演奏が行われている。最初は、教材の中国の歌の楽譜を見ながら聴き、中国語の発音を習得する。その後、旋律を口等で歌い、慣れてきたら階名で歌っている。また、音階を構成している旋律中の一番高い音と低い音を探し、その音階を階名で歌う活動もある。さらに、その音階が使われている他の音楽も思い出させている。

移調については、まずは階名（ドレミソラ）で読んだ後、Dペンタトニックの#記号が説明されている。そして、「Arirang」の主音がGであることを確認した後、Gペンタトニックの音で旋律を読んでいる。さらにはFペンタトニックを学び、Gペンタトニックの「Arirang」の楽譜をFペンタトニックに移調し、記譜の練習をしている。

⑦ Grade6

Grade6では、様々な国の歌が用いられ、演奏や舞踊を通して他国の文化も習得できる内容になっている。また、単に文化の違いを学ぶだけでなく、

表6 Grade5「旋律」に関する学習内容

Unit	Lesson	Title	Explore	Label	Practice
Unit1	Lesson2	音の力	・ペンタトニック音階を基にした旋律を歌う	・ペンタトニック音階の音と中心音を認識する	・ペンタトニックのオスティナートを歌ったり演奏したりする ・ペンタトニックのパターンをまねする
	Lesson4	2つの調のペンタトニック	・声域を知る ・4種類の歌の中にある表現豊かな質を比較する	・歌の音域を決める	・歌の中心音、音、調性、声域を認識する ・音程を強化するために異なる調性で歌を歌う ・ペンタトニックの旋律のパターンを読む
Unit2	Lesson4	新しい調のペンタトニック	・異なる調性のペンタトニックの音階と比較する	・移調について学び、移調されたパターンを読む	・旋律の中で使われている音階の音を認識する ・GペンタトニックからFペンタトニックへ移調する
Unit3	Lesson6	他の音階を使った旋律	—	—	・交響曲の一部分から音楽要素を説明する ・交響曲のテーマから引き出されたハ長調の歌を歌う ・中心音を探し、長調の音階の音と比較する ・ペンタトニックとダイアトニックの旋律を認識する
Unit4	Lesson4	3つの音のメッセージ	・三和音でできた歌を歌う	・歌の中の三和音を認識する	・よく知っている歌の中での長三和音と短三和音を認識する ・三和音と言葉のリズムを使って即興演奏をする
Unit6	Lesson7	歌を歌って手を差し伸べよう	—	—	・歌に合う形式と動きをつけてアメリカの最近の歌を歌う ・歌の発声法を鍛える ・息遣いとフレーズに気を付けて歌を歌う ・ループリックを使って歌の表現を評価する

表7 Grade6「旋律」に関する学習内容

Unit	Lesson	Title	Explore	Label	Practice
Unit1	Lesson2	旋律の動き	・歌を歌ったり、音程のない打楽器で伴奏を演奏したりする	・アフリカ系アメリカ人の霊歌を歌ったり、舟歌と比較したりする	・霊歌に合わせて、打楽器でオスティナートを演奏する
	Lesson5	コラボリズムとメロディ	・アフリカ系アメリカ人の霊歌を歌う	・アフリカ系アメリカ人の歌の旋律の形について討論する	・音階の出る楽器を使って霊歌の旋律とリズムを練習する
Unit2	Lesson1	ユニゾン	・イギリスの民謡を紹介し、ユニゾンをつくるためのテクニックを見つける	・長調のダイアトニックにおける音を復習する	・ユニゾンとカノンの関係を見つける
	Lesson3	言葉は回る	・フランスの歌を紹介する ・ギルバート・アンド・サリヴァンの歌を紹介し、明瞭な発音について説明する	・歌詞のない、音声のみの歌を聴く	・イスラエルの歌を紹介し、16の音のパターンを明瞭に歌う方法を探す ・3つの方法でイスラエルの歌を歌う
Unit3	Lesson5	私たちは回る、回る	・イスラエルの円舞と歌を学ぶ	・円になってドリス人の歌を学び、ダンスの振り付けをする	・2つの円から成るダンスを学び、他のフォーメーションでもできないか考える
	Lesson6	アメリカのダンスの伝統	・ブルーグラスの歌の形式を動いて示す	・ブルーグラスの歌に合わせて、木靴ダンスのパターンを表現する	・イロコイ族のダンスを踊り、スタイル、形式、言葉の違いを認識する
Unit4	Lesson2	鍵盤楽器で演奏しよう	・ピアノについて知る	・ピアノのパートを理解する	・ドイツの民謡を演奏する

それぞれの国の音楽を通して、各国の音楽のリズム、旋律の形や音階の特徴について学習している。そして、旋律の重なりとしては、ユニゾンやカノンについても取り扱われている。Grade6で初めて、鍵盤楽器の学習が登場する。

Grade6のUnit1のLesson5では、音楽の多くの基になっているアフリカのリズムが紹介された後、アフリカ系アメリカ人の文化の起源となった様式（霊歌、ブルース、ジャズ、ソウル、モータウン、ヒップホップ）について話し合うことになっている。その後、教材の霊歌のリズムや旋律について意見を交わした後、タンブリンや手でリズムを打ったり、指示された旋律の特徴（跳躍、経過音、旋律パターンの繰り返し等）を捉えたりする活動が掲載されている。そして最後に、この曲を歌ったり、演奏したりしている。

Unit4のLesson2では、ピアノの歴史と構造、ピアノの種類を学んだ後、鍵盤上の真ん中のドの位置が紹介されている。そして、すべての黒鍵の

音を探した後、真ん中のドより左側の音は低く、右側は高くなることを学んでいる。そして、右手、左手、それぞれでドレミファソを弾く練習をしている。鍵盤の学習は固定ドで説明されている。最後に、歌「Winter Ade」を弾き、可能であれば移調して演奏した後、この曲（ト長調）とト短調に移調した曲を聴き、違いを話し合っている。

Ⅲ. 考察

前章では、各学年の教科書から「旋律」に関するLessonを取り上げ、分析してきた。まず、全48Lessonのうち「旋律」に関するLessonの数を学年別に比較すると、表8のようになった。学年が上がるにつれて、小学校課程では、旋律の学習内容は減少傾向にあることが分かる。高学年では、ハーモニーやアーティキレーション等の他の音楽要素の学習が増える。

さらに、学年別に「旋律」に関する学習の流れを整理すると、表9のようになった。

表8 「旋律」に関する Lesson の数

学年	GradeK	Grade1	Grade2	Grade3	Grade4	Grade5	Grade6
教材数	8	15	20	11	12	6	7

表9 「旋律」に関する学習の流れ

	GradeK	Grade1	Grade2	Grade3	Grade4	Grade5	Grade6
音	ミソラ	ミソラ	ミソラドレ	ミソラドレ、低いソトラ、高いド	ミソラドレファシ、低いソトラ、高いド	ミソラドレファシ、低いソトラ、高いド	ミソラドレファシ、低いソトラ、高いド
旋律の動き まとまり 音階 等	・高低の違い ・ミソラの音の高さの違い	・旋律の方向	・ペンタトニック ・経過音、跳躍、大跳躍	・経過音、跳躍、大跳躍 ・フレーズ ・長調と短調 ・音名と階名 ・中心音	・オクターブ ・長音階 ・装飾音	・移調 ・ペンタトニックとダイアトニック ・長音階と短音階	・ユニゾンとカノン
その他		・記譜法 ・交互唱	・ハンドサイン	・ヴァイオリン		・発声法	・鍵盤楽器

「旋律」に関する学習内容を学年順に追っていくと、明確な見通しをもって教材が配列されていることが分かる。本章のアメリカの教科書教材の分析を通して得られた知見を整理すると、以下のようになる。

- ①音名と階名：ミとソの音から順に音を1つずつ増やしながら習得する。その際、長音階の音階順ではなく、最終的にペンタトニックに結びつく音の順序で学習されている。相対的な音感が身につくよう、Grade1 から移動ドが用いられている。
- ②旋律の動きやまとまり：GradeK では、音の高低の違いや3音の高さの違いを認識する活動であったが、学年が上がるにつれて、音のまとまりとして捉え、旋律の方向性や、経過音や跳躍といった音の動きの特徴、そして音階や調性、移調についての学習、さらにはユニゾンやカノンといった旋律の重なりに関する学習に発展している。
- ③習得方法：まずは耳で音を捉えるとともに、身体の動きで音の高さの違いを確かめた上で、歌を階名で歌ったり、楽譜上の音を読んだりする。特に低学年は身体の動きを伴う活動が多い。また、Grade1～4では、習得した音を用いた即興演奏や創作活動、そしてGrade5、6では、他国

の旋律を取り扱った Lesson が多く見られる。

IV. 終わりに

本稿では、「音楽を形づくっている要素」に着目しアメリカの教科書教材を分析及び整理することで、新たな幼小接続方法を模索することができた。今後は、「旋律」以外の音楽要素についても分析し、各音楽要素の系統性を整理していきたい。

一方で、令和2年度より使用されている日本の児童用音楽科教科書においても、教科書の各頁に、学習する「音楽を形づくっている要素」の名称が示された。今後、日本の音楽科教科書における「音楽を形づくっている要素」の系統性とその活動内容も整理する必要がある。その上で、幼児教育における「音楽を形づくっている要素」を活かした遊びも同時に検討していきたい。

引用文献

- 1 文部科学省『小学校学習指導要領』第1章総則 第2の4学校段階等間の接続(1)、2017
- 2 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編』p.9、2017。具体例としては、身近な自然、季節、地域の行事に関連する学習と関わらせ、音楽科で扱ううたの、季節や行事のうたの表現を深めるなどの表現活動が取り上げられている。また、幼稚園等での具

- 体例としては、遊びうたであるわらべうたを生活の中の遊びと関連させながら取り上げられるといった内容が記されている。
- 3 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』p.9、2017
 - 4 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』p.10、2017
 - 5 櫻井琴音・早川純子「幼小接続期における『共通事項』に着目した歌唱教材の研究」『西九州大学子ども学部紀要』西九州大学子ども学部、第9号、pp.77-86、2017
 - 6 泉谷正則・向井さゆり・大橋美代子 [他]「習得から活用、探求への音楽科学習マネジメントサイクルの研究開発(3)（今日的な教育課題）」『学部・附属学校共同研究紀要』広島大学学部・附属学校共同研究機構、第40号、pp.243-248、2011
 - 7 小見山純一・村田睦美・西川正晃「遊びの中のダイアログにみる音楽的な見方・考え方育成の一考察」『岐阜聖徳学園大学教育実践科学研究センター紀要』岐阜聖徳学園大学、第19号、pp.79-86、2019
 - 8 齊藤百合子「幼小連携からみた音楽教育の方法原理の比較—Silver Burdett『Music』の教科書分析を通して」『研究紀要』常磐会学園大学、第8号、pp.43-57、2008
 - 9 矢野沙織「米国の音楽科教科書 Silver Burdett Making Music (2008) における指導内容の分析—『発想』要素に注目して」『音楽文化教育学研究紀要』広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学講座、第21号、pp.171-180、2009
 - 10 *GradeK Spotlight on Music* (Teacher edition)、SRA/McGraw-Hill、2005
Grade1 Spotlight on Music (Teacher edition)、SRA/McGraw-Hill、2005
Grade2 Spotlight on Music (Teacher edition)、SRA/McGraw-Hill、2005
Grade3 Spotlight on Music (Teacher edition)、SRA/McGraw-Hill、2005
Grade4 Spotlight on Music (Teacher edition)、SRA/McGraw-Hill、2005
Grade5 Spotlight on Music (Teacher edition)、SRA/McGraw-Hill、2005
Grade6 Spotlight on Music (Teacher edition)、SRA/McGraw-Hill、2005

